

総務省国立研究開発法人審議会（第7回）

1 日時 平成29年12月20日（水）10：00～11：00

2 場所 総務省 第3特別会議室（11階）

3 出席者

（1）委員（敬称略）

尾家 祐二(会長)、梅比良 正弘（会長代理）、大場 みち子、知野 恵子
藤井 良一、水野 秀樹（以上6名）

（2）専門委員（敬称略）

入澤 雄太、生越 由美、小塚 荘一郎、末松 憲治、藤野 義之、藤本 正代
村瀬 淳、矢入 郁子、山崎 克之（以上9名）

（4）総務省

今林国際戦略局長、椿国際戦略局参事官、布施田技術政策課長
中越技術政策課企画官、石原技術政策課課長補佐
翁長宇宙通信政策課長、中谷宇宙通信政策課衛星開発推進官

4 議 題

（1）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標策定の流れについて

（2）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標（案）等について

（3）その他

開 会

【尾家会長】 おはようございます。それでは、ただいまから第7回総務省国立研究開発法人審議会を開催させていただきます。

本日はご多忙中のところご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

初めに本日の会議の定足数の関係でございますが、委員6名全員ご出席いただいております。したがいまして、定足数を満たしておりますことをご報告させていただきます。

また、本日は情報通信研究機構部会、宇宙航空開発研究機構部会所属の専門委員の方々にもご出席いただいております。ありがとうございます。

それでは、まず、事務局から配付資料の確認、報告事項についてご説明をよろしく願います。

【中越企画官】 それでは事務局より初めに配付資料の確認をさせていただきます。皆様お手元にクリップどめの資料の束があるかと思えますけれども、クリップを外していただきまして一番上に座席表があるかと思えます。それをよけていただきまして、議事次第がございまして、裏をめくっていただきまして、本日の配付資料一覧がございまして、こちらの配付資料の順に資料が束ねられておりますので、各資料番号を付してございまして、過不足等ございましたら事務局までお申しつけいただければと思います。

なお、参考資料につきましては、お手元のタブレット端末のほうに保存してございまして、傍聴の方には参考資料はお配りしておりません。資料の7-1から7-5までのみ配付してございまして、参考資料につきましては、インターネットで公表されている資料でございまして、こちらのほうの配付は省略させていただいております。また、報告事項でございまして、前回の議事概要につきましては、既に皆様にご確認いただいておりますので、本日は省略いたしております。以上でございます。

議 題

- (1) 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標策定の流れについて

【尾家会長】 それでは、お手元の議事次第にしたがいまして、議事を進めてまいりたいと思います。本日の議題は2件用意させていただいております。

まず、第1の議題に関しまして事務局より説明をお願いいたします。

【中谷推進官】 事務局から資料7-1に基づきましてご説明をさせていただきます。

上半分が目標策定の流れでございます。下半分で目標に添付すべき資料をご説明させていただきます。

まず、上半分でございますけれども、左側でございますように、これまで2回の部会におきまして中長期目標の原案についてご審議をいただいていたところでございます。本日の審議会では今までにいただきましたご意見及びその対応状況を含めまして中長期目標案の原案に対するご意見をいただきたいと思っております。

これを踏まえまして中長期目標の案を策定した後、主務大臣といたしましては、4府省として協議をいたしまして、取りまとめた結果を中長期目標案として独法評価制度委員会に提示をいたします。これに基づきまして、この委員会から意見を受け取りまして最終的に中長期目標の決定となります。

決定した後、主務大臣からJAXAに2月末までに指示をするというスケジュールでございます。その後、JAXAからはこの目標に沿いまして計画の認可申請がございますので、3月末までに主務大臣として計画を認可するというスケジュールでございます。

下半分でございますけれども、中長期目標に添付すべき資料として整理をしております。1つ目が政策体系図でございます。こちらは国の政策体系において法人の業務がどのように位置づけられるかを明らかにした資料でございます。本日の資料7-4-2でお示しをしているところでございます。

加えまして評価軸といたしましては、研究開発の事務及び事業を評価するに際しての重要な視点であり、それぞれの目標に応じて設定した評価軸を基本として評価するものでございます。こちらは資料7-4-3に示しております。この評価軸の中で2つの指標を設けております。評価指標とモニタリング指標でございます。

①評価指標は、評価・評定の基準として取り扱う指標でございます。②モニタリング指標は正確な事実を把握し、適正・厳正な評価に資するために必要な指標でございます。

下に矢印で書いてございますけれども、さらにこの①②を細分化して指標を設けております。読み上げさせていただきますと、独法制度評価委員会から研究開発の成果が当初企図したものとは異なるものであったとしても、その成果に加え目標達成のために行った取組や工夫についても評価することができるよう研究開発の進捗管理の実施状況等を評価軸・指標等として設定し、研究開発の過程で得られた成果も含めて適切に評価することを

検討してはどうかということが、独法制度評価委員会から意見として頂戴しておりますので、これを受けまして①評価指標、②モニタリング指標それぞれにつきまして、成果指標とマネジメント指標というものを設定しております。こちらの中身につきましては、後ほどの議題の中でご説明をさせていただきます。流れ等につきまして事務局から説明は以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。ただいまの説明につきまして何かご質問、ご意見などございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、本件に関しましては皆さんご理解いただいたということで、ありがとうございます。

(2) 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標（案）等について

【尾家会長】 それでは、続きまして議題2につきまして事務局よりご説明をお願いいたします。

【中谷推進官】 それでは資料7-2以降でご説明をさせていただきます。まず、資料7-2をご覧くださいければと思います。こちらが次期中長期目標案の概要でございます。概要についてまずご説明をさせていただきます。

まず、右上にございますように次期中長期目標期間としては7年というところが一番大きな変更点でございます。左側にJAXAを取り巻く環境の変化とJAXAの取組方針を記載しております。環境の変化につきましては、4点挙げております。

1つ目が宇宙空間の安全保障上の重要性増大ということで、宇宙空間・宇宙システムは安全保障の基盤として不可欠であると。その一方で宇宙空間の混雑化ですとか、宇宙デブリ等の脅威、リスクが高まっております。さらには防災・減災にかかる取組の必要性、及び地球規模課題ですとかSDGsの国際共通的な課題への対応の必要性という環境の変化がございます。

2つ目でございますけれども、宇宙産業拡大への期待の高まり、国際競争激化ということで民間事業者主体の宇宙活動のための環境が整備されてきているということ、及びそれに伴う活動の活発化という環境の変化がございます。また、国内外の需要に応えた新市場の開拓の必要性、さらには研究開発成果の橋渡しや社会実装に対する期待が高まっております。

3点目といたしましては、宇宙科学・探査分野における世界最高水準の成果創出及び国際的プレゼンス維持、向上の必要性が増大しております。これは新興国の台頭による我が国の存在感ですとか、技術的優位性の不安定化及び国際的探査活動の活性化を踏まえた戦略的な我が国の役割確保の必要性がございます。

4点目でございます。こちらは総務大臣の所管外ではございますけれども、航空産業発展への貢献の必要性が増大していると。以上4点をJAXAを取り巻く環境の変化として取りまとめております。

これを踏まえまして、JAXAの取組方針としては、これに沿う形で4つの方針を定めております。

1つ目が安全保障の確保及び安全・安心な社会の実現。2点目が宇宙利用拡大と産業振興。3点目が宇宙科学・探査分野における世界最高水準の成果創出、及び国際的プレゼンスの維持・向上。4点目が航空産業の振興、国際競争力強化でございます。

この取組方針に沿う形でローマ数字Ⅲポツ、真ん中の列でございますけれども、宇宙航空政策の目標達成に向けた具体的取組を示しております。3.1から3.11が具体的な宇宙関係のプロジェクトの実施で、4.1、4.2が分野横断的な研究開発という区分けになっております。

まず3.1衛星測位でございますけれども、我が国の測位システムの高度化及び高精度測位情報配信サービスを実現する。3.2衛星リモートセンシングは防災・災害対策や気候変動対策における判断指標としての衛星データの定着、普及。衛星データの利便性向上による衛星データの利用促進を挙げております。

3.3衛星通信でございますけれども、民間事業者による2020年代の国際商業通信衛星市場での現在より高いシェアの獲得。大容量のデータ伝送実現を目指すとしております。

3.4宇宙輸送システムでございます。我が国の自律的な宇宙輸送能力の切れ目ない保持でございます。

3.5宇宙状況把握、関係政府機関が一体となったSSA運用体制の構築への貢献としております。

3.6海洋状況把握・早期警戒機能等については、関係機関との連携による安全保障への貢献を上げております。

3.7宇宙システム全体の機能保証としては、宇宙システム全体の機能保証への貢献と

しております。

3.8 宇宙科学・探査につきましては、新たな宇宙開発利用の開拓、世界最高水準の科学的成果の創出としております。

3.9 国際宇宙ステーションにつきましては、2020年までに「きぼう」が研究開発基盤として産学官で幅広く利用される姿を実現し、ISSを活用したイノベーション創出、産業振興、宇宙利用拡大としております。

3.10 国際有人宇宙探査でございますけれども、地球低軌道より遠方の深宇宙における我が国の主導権、発言権の強化としております。

3.11 人工衛星等の開発・運用を支える基盤技術といたしましては、人工衛星の安定的運用や開発を支える基盤技術を通じた我が国の宇宙政策の目標達成としております。

ここまでが宇宙関係のプロジェクトの実施に関する目標でございます。次から横断的な研究開発でございます。

4.1 民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組として、民間事業者を主体とする新たな事業創出等による宇宙利用拡大や技術革新、宇宙産業を担う人材の育成への貢献としております。

4.2 新たな価値を実現する宇宙産業基盤、科学技術基盤の維持強化としては、社会を先導する挑戦的な研究開発の推進を通じた新事業領域開拓及び非連続な技術革新、宇宙産業、科学技術基盤の維持、発展しております。

5番として、航空科学技術についても記載しておりますが、ここでは省略をさせていただきます。

ローマ数字のIVポツでございますけれども、このような目標を支えるための重要事項として定めております。

1.1 が国際協力・海外展開の推進及び調査分析といたしまして、各国のニーズを踏まえた宇宙利用拡大、社会基盤としての宇宙インフラの定着及び国内外の動向調査、分析機能の強化、政府等への積極的情報提供・提言としております。

1.2 国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献として、丁寧でわかりやすい情報発信による国民への説明と理解増進、宇宙航空分野に興味、関心を抱く機会提供や成果・知見の教育への活用としております。

1.3 プロジェクトマネジメント及び安全信頼性の確保としては、事業全体におけるリスク軽減による確実なミッション達成としております。

1.4 情報システムの活用と情報セキュリティの確保としては、重大な情報セキュリティインシデント発生防止、セキュリティ対策強化としております。

1.5 施設及び設備に関する事項としては、中長期的な更新、整備、維持運用としております。

2 ポツ、情報収集衛星に係る政府からの受託については、必要な体制の確立及び着実な実施としております。

3.1 内部統制としては、理事長のリーダーシップのもとでの内部統制システムの構築運用。

3.2 人事に関する事項としては、民間事業者等との相互人事交流、将来につながる組織内の積極的人材育成としております。

ローマ数字Vポツ、業務運営の改善・効率化に関する事項としては、社会情勢の変化等を踏まえた柔軟かつ効率的な組織体制の整備、業務・経費の合理化、適正な給与水準の維持や検証結果・取組状況の公表。

最後、VIポツでございますけれども、財務内容の改善に関する事項としては、独法会計基準等を踏まえた適切な財務内容の実現や情報公開、外部資金の獲得に向けた積極的な取組による自己収入の増加促進、これらを目標として掲げております。

続きまして資料7-3をご覧くださいと思います。

これまで2回のJAXA部会及びメールでのご意見を受けまして、こちらにはいただきましたご意見とそれに対する目標への反映状況について整理をしております。

大きく16個の意見をいただきまして、おおむね対応させていただいているところでございます。

具体的な対応につきましては、次の資料以降でご説明をさせていただきますので、意見のみこちらではご紹介をさせていただきます。

まず、①番でございますけれども、宇宙空間の安全保障と国の外交・安全保障について混在してわかりにくいというご意見でございます。

②番、宇宙科学・探査に関する記述が乏しいと。国際的プレゼンスに重きが置かれすぎているというご意見でございます。

③番、衛星リモートセンシングによる災害時における対応にも言及すべきというご意見でございます。

④番目が環境の変化に対する柔軟な対応を明記してはどうかというご意見でございます。

⑤番が7年間という期間を見据えると宇宙資源探査や、軌道上活動についても言及すべきというご意見でございます。

⑥番でございます。衛星測位において次期衛星測位システムに関する取組について言及が乏しいというご意見でございます。

⑦番目、衛星通信におきまして、2020年により多くのシェアを獲得するという文章の主語が不明確であるというご意見でございます。

⑧番目が宇宙輸送システムにおいて、コスト削減に関する数値目標、指標への反映をすべきではないかというご意見でございます。

⑨番目が国際宇宙ステーションにおいて、研究開発基盤として産学官で幅広く利用される姿の具体像を明確にしていきたいというご意見でございます。

⑩番目が再使用型宇宙輸送システム技術が社会を先導するという理由が不明確であるというご意見でございます。

⑪番目が国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献において国民の理解を得ることが不可欠という視点が重要ではないかというご意見でございます。

⑫番目が施設・設備に関する事項において、老朽化という課題に対し中長期的な更新計画の立案が必要というご意見でございます。

⑬番目は人事において、能力ある女性の登用についても言及してはどうかというご意見でございます。

⑭番目がJAXAの保有する資産や価値を利用したビジネス化による資金獲得も検討する必要があるのではないかというご意見でございます。

⑮番目がJAXA内で共通的に利用する情報システム、JAXAが保有するデータ等を外部と共有するための情報システムについて情報セキュリティ対策の指標が必要ではないかというご意見でございます。

⑯番目が外部資金等の獲得に関する指標で件数や金額を成果指標とすべきではないかというご意見でございます。

これらの反映状況を以下の資料でご説明をさせていただきたいと思っております。

資料7-4-1 中長期目標の案の全文をご覧ください。対応させていただきました部分に黄色でマーカーを引いておりますので、その部分をご説明をさせていただきます。

まず、5ページ目に飛んでいただければと思います。こちらでは安全保障と宇宙の安定

的利用の関係を整理しております。1パラ目でございますけれども、我が国の安全保障環境が一層厳しさを増している中、安全保障能力を強化していくためにも宇宙を効果的に活用していくことが必要とされているとしております。4行目でございますけれども、宇宙空間の安定的利用を妨げる脅威・リスクが深刻化していると。次の行の、このためとして、宇宙基本計画では宇宙空間の安定的利用の確保、宇宙を活用した我が国の安全保障機能の強化等を政策目標として掲げ、工程表において示しているという形で整理をしております。

続きまして9ページ目に飛んでいただければと思います。

こちらは(1)の安全保障の欄で災害対策ということを明記をさせていただいております。

10ページ目でございます。こちらは国際的プレゼンスに重きが置かれすぎているのではないかというご意見を踏まえまして、世界最高水準の成果創出ということタイトルにも挙げ、本文にも記載をしているところでございます。

続きまして、11ページ目でございます。こちらは7年間という中長期目標の期間を踏まえた記載をしております。なおといたしまして、個々のプロジェクトの実施に当たっては将来の安全保障、産業動向、科学技術、国際情勢等の環境変化を踏まえ柔軟に対応していくものとする記載をしております。

3.1の衛星測位の下から3行目でございますけれども、次期の話については、我が国測位システムの高度化法、高精度測位配信サービスの実現、抗たん性強化等を念頭に研究開発を行うということで記載をしております。

12ページ目でございます。マーカーを引いているところでございますけれども、防災、災害対策については、利用ニーズに対応して、一層貢献をしていくというふうに対応させていただいております。

13ページ目に行っていただければと思います。2020年代におけるシェア獲得の主語が不明確ということでしたので、この目標としては、シェアを獲得することに貢献するというふうにさせていただいております。

15ページ目にいっていただければと思います。こちらにも国際的プレゼンスだけではなくて、世界最高水準の成果創出ということ明記をしております。

16ページ目でございます。こちらは大学や民間事業者等々とのより一層の連携強化を通じて「きぼう」が幅広く利用されるという姿を明示しているところでございます。

18ページ目にいっていただければと思います。こちらにも国際的プレゼンスに並べて世

界最高水準の科学的成果創出というのを掲げるとともに再使用型宇宙輸送システム技術というのは不明確というご指摘を踏まえまして、低コストで高頻度な宇宙輸送を可能とする技術と付記をしているところでございます。

20ページ目にいただければと思います。こちらは宇宙資源探査や軌道上サービスということを明記してはどうかというご意見を踏まえまして、こちらに記載をさせていただいているところでございます。

21ページ目でございます。こちらは国民についての記載でございますけれども、宇宙航空研究開発の事業の推進にはユーザーであり出資者である国民の理解を得ることが不可欠であると追記をしております。

22ページ目に行ってくださいと思います。施設、設備については、中長期的な更新、整備、維持運用計画の立案及び実施の必要性があるということで、こちらにこのように記載をさせていただいております。

23ページ目でございます。人事に関しましては女性を含む多様な人材の活躍推進に貢献するというふうに修正をさせていただいております。

最後24ページ目でございますけれども、JAXAの保有するさまざまな宇宙航空技術に関する知見の提供等により外部資金の獲得ということで追記をさせていただいているところでございます。

説明が長くなり恐縮でございますが、この中長期目標に添付する資料についてご説明をさせていただきたいと思っております。資料7-4-2の横紙をご覧くださいと思います。政策体系図でございます。こちらは左側にまず宇宙基本法がございます。これに基づく閣議決定として宇宙基本計画がございます。右側には科学技術基本法がございます。これに基づく閣議決定として科学技術基本計画がございます。

これに沿う形で文部科学省の方針が航空分野について定められているところでございます。これらと、JAXA法と取り巻く環境を踏まえて先ほど冒頭概要でご説明しました4つの取組方針というのの導出しているというのが、こちら政策体系図でございます。

もう一つ別添資料がございまして、資料7-4-3でございます。評価軸等についても定めているというところでございます。

こちらの評価軸は先にご説明をいたしました4つの取組方針に沿って整理をさせていただいております。

まず、1つ目の評価軸としては、安全保障関係でございますけれども、この取組の立案、

検討マネジメント、成果という評価軸に対しまして、右に示します評価指標、モニタリング指標を規定しております。

まず評価指標といたしまして、成果指標としては、取組の成果、マネジメント指標といたしましては事前検討、マネジメント、外部との連携・協力の状況を挙げております。

モニタリング指標のうち成果指標につきましては国際的ベンチマークに照らした成果、マネジメント等指標につきましては、外部との連携協力、外部資金等の獲得、活用としております。2つ目の評価軸でございますが、宇宙利用拡大と産業振興につきましては、新事業創出ですとか国際競争力強化に貢献するための立案・検討・マネジメントの成果ということにつきまして、右側の評価指標といたしましては、そのうち成果指標につきましては、こちらご意見を踏まえまして品質、コスト、スケジュール等を考慮した取組を含む成果を成果指標としております。

マネジメントにつきましては、事前検討マネジメントの状況、連携協力の状況でございます。

モニタリング指標につきましては、成果指標の国際的ベンチマークに加えまして、宇宙実証機会の提供数、研究開発成果の社会還元・展開の状況、新事業創出数、外部へのデータ提供数を挙げております。

マネジメント等指標については、さきと同様でございます。

3つ目の評価軸といたしましては、宇宙科学・探査分野における世界最高水準の成果創出、及び国際的プレゼンスの維持・向上の立案・検討・マネジメントや成果が生まれているかということに対しまして、右側の評価指標といたしましては、成果指標は取組の成果、マネジメントは事前検討、マネジメントということに加えまして、大学・海外機関等々の外部との連携協力の状況を挙げております。

モニタリング指標といたしましては、成果指標として国際的ベンチマークに加えまして人材育成のための制度整備、運用の成果を挙げております。

最後3ページでございますけれども、マネジメント等指標につきましては、外部との連携・協力数に加えまして人材育成、論文数を追加的に挙げております。

5ポツについては、省略をさせていただきます。

資料7-5でございます。こちらは中長期目標に添付することが義務づけられているものではございませんけれども、来年度以降、本審議会で評価をしていただくに当たりまして、視点と関連する指標を整理させていただいているところでございます。

こちらはご意見を踏まえた反映状況だけご説明をさせていただきたいと思います。1ページ目の右下にございますけれども、情報システムに関しましては、情報セキュリティ対策の状況についても指標として追加すべきではないかというご意見を踏まえまして対応させていただいております。

最後3ページ目に飛んでいただきまして自己収入に関する件数等について指標化してはどうかというご意見につきましては、ローマ数字VIポツの財務内容の改善に関する事項といたしまして、自己収入の増加を促進する取組の状況ということで関連する指標として掲げているところでございます。

説明は雑駁でございますが、以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。皆様方からご意見いただいております、それに基づいて目標ですとか指標に関しまして改定が検討されたということです。ただいまご説明いただきましたけれども、皆様方のご意見がきちんと反映されているか、そのあたり含めましてご質問、ご意見などよろしく願います。

【末松専門委員】 資料の7-2ですけれども、真ん中の3.3の衛星通信のところ、ほかの資料は修正されているんですけれども、最初のマルで民間事業者による2020年代の国際商業衛星通信市場での現状より高いシェアの獲得でなく、多分、高いシェア獲得への貢献というふうな形でご修正いただいたほうが、合うのではないかと思います。

【中谷推進官】 ご指摘ありがとうございます。そのように修正をさせていただきたいと思います。今ご指摘のございましたのは本文の13ページ目のところでマーカーを引いてある変更も、こちらの概要に反映すべきはないかというご意見でございまして、そのように対応させていただきたいと思います。

【尾家会長】 今のは13ページの修正案ですと、獲得することに貢献するということですから、もうもう一つ踏み込んだ形で書いておくということでしょうか。

【末松専門委員】 ではなくて、このまとめ資料の7-2のほうで直っていなかったということです。

【尾家会長】 ああ、こちらのほうですね。そういうことでね。ありがとうございます。

7-4-1は修正されているけれども、7-2のほうを修正するよということですね。よろしく願います。ありがとうございます。

そのほか何かご質問、お気づきの点ございますか。願います。

【藤井委員】 建付けの話なんですけれども、今ここで議論をしていますが、一番最初

の7-1のところから見ると、JAXAはいろんな各省庁がコミットされていて、ここも幾つかの省庁がありますけども、これはほかのところでも同じような議論があつて、それを取りまとめて最終的に評価のほうにいくというたてつけということによろしいのでしょうか。

【中谷推進官】 ご質問ありがとうございます。資料7-1にスケジュールを書いておりますけれども、4府省それぞれで本日のこの審議会に該当するものがございます。そこでそれぞれご意見を主務大臣として頂戴をいたします。その後、その4府省の審議会からのご意見を踏まえまして、4府省で中長期目標の案を協議で一本化いたしまして、それを独法制度評価委員会に提示するという段取りで進めてまいりたいと思っております。

【藤井委員】 わかりました。

【尾家会長】 そのほか何かございませんでしょうか。

【小塚専門委員】 小さなことですが、7-4-1の資料の21ページです。委員のご意見を踏まえて直されたところでユーザーであり出資者である国民の理解ということですが、ご趣旨はわかりますが、国民がJAXAの出資者と書かれますと、法律家としては少し気になりまして、実質的な出資者とするか、資金負担者とするかいずれかではないかと思しますので、適当な表現を選んでいただければと思います。よろしく申し上げます。

【中谷推進官】 はい、ご指摘を踏まえて検討させていただきます。ありがとうございます。

【尾家会長】 どうも貴重なご意見ありがとうございます。そのほか何かお気づきの点ですとかご質問ございませんでしょうか。

【知野委員】 そうしますと、ほかの省庁も審議会を開かれて、この中で変わりそうなところはあるのでしょうか。

【中谷推進官】 あまり推測に基づいて物を申し上げることは適当ではないかもしれませんが、当省の審議会と同様に他府省にも部会というものがございます。そこで当省の審議会のように部会でさまざまなご意見をいただきまして、それを相互に4府省で情報を共有しながら順々に協議を進めてきておりますので、おおむねこの中長期目標の案の構成というものは変更は及ばないというふうに考えております。

万が一そこに大きな変更が及ぶような場合には、また、別途、尾家会長と相談しながら進めてまいりたいと思っております。

【尾家会長】 よろしいでしょうか。今回7-2を見ましても、大きな動きとして国際

宇宙、有人宇宙探索のようなものも盛り込まれて、こういった大きな枠組みでの共通認識というのはとれているということです。あとは、これを実施していく中での目標設定の表現ですとか、そういったところに関して多分、今ご意見の調整が行われているのかなというふうに理解しています。そういう理解でよろしいでしょうか。

【中谷推進官】 はい。

【尾家会長】 皆様、何かご遠慮なくご感想なり、ご意見を。

【藤井委員】 何回もすみません。非常に大きなH2、H3のようなロケットから、小型とかあるわけですが、最近は超小型衛星が世界ではかなり多く使われるようになってきていて、日本でもそういう動きがあるんですが、そういうものに対するJAXAのコミットメントというか貢献とかということはどこかに書いてあるんでしょうか。または、それは民間とか大学に基本的には任せるので、JAXAのメインのストリームには入れないとか、そういう考え方があるんでしょうか。

【翁長課長】 13ページ目の3.4の宇宙輸送システムの記載がございすけれども、ご指摘ありましたようにH2型ですとか、3型に加えてちょっと小型化に対応するような形になるかもしれませんが、イプシロンロケットの記載もございす。また、これらも踏まえて国際競争力を強化して国内外の多様な需要に柔軟かつ効率的に対応していくということが記載されておりますので、昨今の低軌道ですとか小型化ですとかそういったことにもJAXAさんにも柔軟に対応していただければと思っております。今週土曜日にはJAXAさんのほうで、GCOMという衛星とSLATSという衛星を打ち上げますけれども、SLATSという衛星は低軌道の小型衛星の実現を目指した技術実証のための衛星でございすので、これらの観点にも既に取り組んでおりますので、これからもJAXAさんも柔軟にそういうものにも対応していくと考えております。

【尾家会長】 ありがとうございます。

【藤本専門委員】 以前、資料7-5の情報セキュリティのところコメントさせていただいて修正をいただきありがとうございます。細かい話ですみませんが、対策の状況となっているところは、対策の策定とその実施の状況の両方を包含する表現と理解したのですが、それでよろしいですか。

【中谷推進官】 はい、ご指摘のとおりでございす。

【藤本専門委員】 ありがとうございます。

【尾家会長】 そのほかございせんでしょうか。

先ほど藤井先生からありました超小型衛星は、JAXAさんが非常によく対応いただいていると思います。そういった活動も何か評価の中に最終的にはうまく入ると思いますけれども、入れていただければと思います。私ごとですけれども、本学もことし6機ぐらいかな、超小型衛星を「きぼう」から放出していただきました。先ほどの「きぼう」の活用についてもありましたけど、多分国際的な協調とかそういったことにも非常に貢献していただいているかなと思います。

ぜひ、評価いただけたらと思います。何かございませんでしょうか。よろしいですか。ご満足いただけているということでもいいですか。

それでは今ご意見を幾つかいただきまして、先ほどの国民の間あたりの若干の修正が必要かと思えます。ただいまいただきましたご意見に基づきまして修正させていただきますが、まず、独立行政法人通則法第35条の4第4項に基づく国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標の（案）に関しまして国立研究開発審議会の意見につきましては、ただいまの議論を踏まえまして必要な修正をさせていただきたいと存じます。所要の修正に関しましては会長の私にご一任いただければと存じますけれども、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、そのように取り運びさせていただきたいと存じます。

（3）その他

【尾家会長】 その他全体を通しまして何かございますでしょうか。

【中谷推進官】 本日は意見の取りまとめ大変ありがとうございました。今後は先ほど資料7-1でご説明をいたしましたように関係4府省で所要の修正を検討した上で、独法制度評価委員会の意見を聞いた上で、2月中にJAXAに対して次期中期目標を提示する予定としております。修正後の中長期目標につきましては、委員の皆様にご情報提供させていただきますので、よろしく申し上げます。

それでは、これまでの審議を踏まえまして局長の今林から一言ご挨拶をさせていただきたいと思います。

【今林局長】 座ったまま失礼します。今林でございます。遅れまして申しわけありま

せん。本日はご多忙の年末にもかかわらず、このように多数ご参集いただき真剣なご議論を賜りましてありがとうございます。

先ほどご説明を申し上げましたように、JAXAの第3期中期目標期間全体の見込み評価と業務、組織の見直し、それからまた、次期中期目標案に対するご意見ということで重ねてずっと負担をお願いしてまいりましたけれども、このように意見を取りまとめたいただきましてまことにありがとうございました。

今日いただきましたご意見を受けまして、関係府省それから総務省の独法評価制度委員会それから財務省協議、こういったものを経まして来年2月末までに中長期の目標を決定するという運びとさせていただきたいと思っております。

この策定に伴いまして新しいステージに入りますけれども、政府全体の宇宙開発利用を技術で支える中核的実施機関ということで科学技術というのが、成長あるいはイノベーションの中心を担うわけでございますけれども、こういった先導して新しい価値を創造する組織ということで変革してまた貢献してもらえるように取り組んでまいりたいと思っております。

私ども、科学技術の関係で、ICTということを中心にやってまいりましたが、先生方ご覧のとおり、ICTと申しますと、あらゆる分野に今関わりを持ってまいりまして、あらゆる分野にまたお世話になると申しますか貢献もできるということで、ICTそのものだけでなくいろんなところに貢献をしまっているその方策とかというものを今探ろうということで、技術の関係の検討会というものを立ち上げました。そこで私申し上げましたのは、私も鉄腕アトム世代でございますが、50年前にアニメで鉄腕アトムやスーパージェッターで見たものでほとんど実現しているんですけど、空飛ぶ車と宇宙を行き来するということがまだなかなかできてないということで、当時の先輩たちがああいう夢を持って着々とかう皆さん方実現してこられたことを見習って私どももさらに夢を持って実現をさせていきたいと、また、世界に貢献してまいりたいと思っております。

先生方の引き続きのご指導ご鞭撻をお願いして御礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【中越企画官】 それでは、事務局から1点、事務連絡でございます。本日の会合を持ちまして本年度の審議会は全て終了ということになってございます。来年度の審議会に関する日程につきましては、改めて事務局のほうからご連絡させていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

事務方からは以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。今、局長からも話がありましたように宇宙は非常に夢が多いところであろうと思っています。大学も大学を開放していろんな方に来ていただく中でやっぱり中学生、高校生の方で宇宙に興味を持っている方が非常に多いなと思います。本学も実は来年度から宇宙システム工学科という学科をつくれます。ぜひこの分野が成長しますことを期待しております。

皆さん方も今年度これで終了ということでございます。皆様方の真摯なご意見に基づきまして非常によい目標が作成されたというふうに理解しております。皆様のご協力に感謝をいたしまして、以上をもちまして、第7回総務省国立研究開発法人の審議会を終了させていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。